

8002「大体、君としては、ぼくと結婚する気なんかないんだろう？」

「大体、君としては、ぼくと結婚する気なんかないんだろう？」

それまではこちらが何か言うたびにすぐ返事をしていたユカリなのに、これには答えなかった。沈黙はつづいている。ぼくは何か、不吉のような不吉でないような胸騒ぎを感じて、長い長い電話線のこちら側の端で同じように黙りこみながら、返事を待っていたのだが、やがてユカリがぼつりと言った。

「とんでもない勘ちがいしていたわ」

「勘ちがい？ それはどういうこと？」

とぼくは、相変らず胸騒ぎがおさまらぬまま問い返し、これはいけない、どういうことになるのかはちっとも判らないけれど、とにかく大変なことになった、と感じていた。彼女が答えた。

「あたし、結婚の申し込みというのはもっとロマンチックなものだと思っていたのよ」

ぼくは何かほっとしながらしかし驚愕して荒々しく叫んだ。

「おい、サユリ！」

「そうなのよ。本当にそう思っていた」

とここまでは抒情的な口調でつぶやいて、あとは急に調子が変わり、嬉しそうにはしゃいで、  
「現実ってこういうものなのね」

丸谷才一『たった一人の反乱』

[許容訳例]

"Either way, you've got no intention of marrying me, have you? "

So far, Yukari had been making an immediate response to whatever I said to her, but to this she didn't. She remained silent for a while. I felt uneasy as I waited for her reply at this end of the long, long telephone wire, maintaining the same silence myself. At last she murmured,

"I was laboring under a great misunderstanding."

"Misunderstanding? What do you mean?" I said, still feeling uneasy about what was going to happen. Either way, things seemed to be going wrong. She answered,

"I had an idea that a marriage proposal would be much more romantic."

I felt relieved, but appalled as well.

"Listen, Yukari!" I shouted roughly.

"Yes, I really thought so," she murmured in a lyrical tone—then, with a sudden change of a voice, said merrily,

"Realities of life are always like that, aren't they?"

[翻訳例]

"Actually, I hardly imagine you're interested in marrying me, don't you?"

So far, Yukari had responded at once to whatever I said; but this time there was no reply. The silence went on and on. I lapsed into a similar silence at my end of the long line, conscious

of my stomach fluttering with a kind of hopeful apprehension as I waited for a reply. Eventually she said, in a flat little voice,

"I got it all terribly wrong."

"Wrong?" I repeated, the butterflies still at it in my stomach, "In what sense?" Something was amiss; I'd no idea what was about to happen, but whatever it might be, something serious was afoot, I felt sure.

"I always thought," she replied, "that a proposal of marriage would be more romantic."

"Hey, Yukari!" I bellowed, half relived and half appalled.

"Yes, I did...I really thought so"—this was in a kind of lyrical murmur.

"But"—then suddenly switching to gaiety—"Reality's like that, isn't it?"

■「大体、君としては、ぼくと結婚する気なんかないんだろう？」(8002)

★「大体」は、たとえば、「大体、お前っていう奴は・・・」のように、人を非難する時に使う導入語です。これに相当する英語は actually です。

★「ぼくと結婚する気はない」は You're not interesting in marrying me.とか、You've no idea of marrying me.です。You've no intention of marrying me.は堅すぎますが使えなくはありません。

★「・・・ないんだろう？」は付加疑問にすればよいのですが、「・・・ないんだろう？」を「・・・ないと思うがどう？」として I imagine...を加えると、日本語では後の節に入っている否定語は、英語では前の動詞に付けることになります。したがって、I imagine you're not interesting in marrying me.ではなく I don't imagine you're interesting in marrying me.となりますが、ここでは「まづか・・・」というニュアンスが含まれているので I hardly imagine ...とします。

■それまではこちらが何か言うたびにすぐ返事をしていたユカリなのに、これには答えなかった。(8002)

●「連体修飾節+特定体言」(・・・していたユカリ)

「それまではこちらが何か言うたびにすぐ返事をしていたユカリ」は「連体修飾節+特定体言」ですから\*Yukari who...ということはできません。「ユカリはそれまではこちらが何か言うたびにすぐ返事をしていたのに」と言い換えなければなりません。

★「それまでは・・・だった」は So far[Up to now]...+過去完了形です。

★「こちらが何か言うたびに」は whenever I said something と直訳も可能ですが、Whatever I said の方が英語としては自然です。この表現は話の内容を指しているようにとれますが、そうではありません。

★「すぐ返事をしていた」は she had been making an immediate response to...あるいは she had responded at once to...です。

★「これには答えなかった」は、そのまま訳すと To this she didn't ですが、少し尻切れト

ンボのようですから This time there was no reply[answer].がいいでしょう。

■沈黙はつづいている。(8002)

★これには「ちょっと待ってみたけど沈黙は終わりそうになかった」というニュアンスが含まれているように感じられるので、she を主語にするなら She kept[remained; stayed] silent for a while.であり、silence を主語にするなら The silence went on and on.とか The silence showed no sign of ending.でしょう。ちょっとオーバーかもしれませんが、英語ではこの方が自然です。

■ぼくは何か、不吉のような不吉でないような胸騒ぎを感じて、長い長い電話線のこちら側の端で同じように黙りこみながら返事を待っていたのだが、やがてユカリがぽつりと言った。(8002)

★英語には「不吉のような不吉でないような」という言い方はないので、簡単に「胸騒ぎを感じる」として feel uneasy とすればよいのですが、翻訳の技法としては、このような場合には、open secret のように、逆の意味の形容詞と名詞を一緒にして表現する方法があります。ここは「(何か不吉のような不吉でないような) 胸騒ぎを感じる」と続きますので「何か」を a kind of で表して flutter[have butterflies in the stomach] with a kind of hopeful apprehension と訳すことができます。flutter は「(恐怖・不安で) びくびくする・(期待・希望で) わくわくする」という意味ですし、成句の get[have] butterflies in one's stomach の butterflies は「はらはら・ときどき」という意味です。

★「長い長い電話線のこちら側の端で」はそのまま訳すと at this end of the long, long telephone wire ですが、at my end of the long line でもいいでしょう。

★「同じように黙りこみ」は maintain the same silence myself ですが、「黙り込む」には lapse into silence という成句があります。これを利用すると lapse into a similar silence となります。また「同じ」ではなく「同じように」なので same より similar でしょう。

★「返事を待っていた」は waited for a[her] reply です。

●「て」(同時)と「ながら」(暫時同時)

この箇所は簡単にすると「胸騒ぎを感じて、黙りこみながら、返事を待っていた」となります。つまり「胸騒ぎを感じた」(I felt uneasy)「黙りこんでいた」(I maintained silence)「返事を待っていた」(I waited for a reply)という三つの {単位情報} が「同時」を表す [て] と [ながら] で結ばれているのです。「(黙り込み) ながら、(待って) いた」は、たとえば、「タザキ氏はホテルのカフェ・テラスでコーヒーを飲みながら恋人のマチコが来るのを待っていた。」(Tazaki was drinking coffee in the terrace cafe of the hotel as he waited for his girlfriend Machiko.)のように as を使います。さらに、「(感じ) て、(黙り込んで) いた」は「主動詞 (・・・いた) + 句 (・・・て)」で訳すと英語として自然になりますから、ここでは I remained a similar silence, feeling uneasy, as I waited for a reply.がいいですが、Feeling uneasy, I remained a similar silence, as I waited for a reply. とか I felt uneasy, as I waited for a reply, remaining a similar silence.という組み合わせも可能です。

★「やがて」は eventually が適当です。

★「ぼつりと」は多分、「低い小さな声」だったと思われます。それで in a flat little voice としましょう。littile は flat と重ねると、単に声が小さいというだけでなく、「可愛い・可愛そうな」という感情が込められることになります。

■「とんでもない勘ちがいしていたわ」(8002)

★「とんでもない」は terribly; horribly; awfully; frightfully などが使えます。

★「勘ちがいする」は、辞書には labor under a misapprehension[misunderstanding]が出ていますが、堅い感じなのでここでは使いたくありません。get something[someone] wrong とか、get it wrong (誤解する) を使うといいでしょう。ついでながら、この wrong は通例文尾におかれて副詞です。

■「勘ちがい? それはどういうこと?」(8002)

★「勘ちがい?」は、前で misunderstanding を使ったのなら "Misunderstanding?" ですし、get it wrong を使ったのなら "Wrong?" です。

★「それはどういうこと?」は "What do you mean?" ですが、"In what sense?" とか "In what way?" も使えます。

■とぼくは、相変らず胸騒ぎがおさまらぬまま問い返し、これはいけない、どういうことになるのかはちっとも判らないけれど、とにかく大変なことになった、と感じていた。(8002)

★「相変らず胸騒ぎがおさまらぬまま」は、上で feel uneasy を使ったのなら still feeling uneasy ですし、flutter (蝶がひらひらする) を使ったのなら、get[have] butterflies in one's stomach (胸がドキドキする) という成句を利用して butterflies (being) still at it in my stomach としましょう。

★「問い返す」は asked か repeated です。

★「これはいけない」は something was amiss. とします。amiss は「計画通りっていない・どこか変になった」という意味ですから、「これはいけない」という日本語にぴったりだと思います。なお、「これはいけない」は訳出しなくてもいいかもしれません。

★「どういうことになるのかはちっとも判らないけれど」は I'd no idea what was happening (何がおこりつつあるのか判らない) か、I'd no idea what was about to happen でしょう。

★「とにかく」は either way とか whatever it might be とかでしよう。

★「大変なことになった」は something to be afoot という、何か不吉な感じが入るので、something serious was afoot と言えば、something serious was about to happen という意味になりますから、日本語の感じが出ると思います。他には things seemed to be going wrong も可能です。

★「感じていた」は I felt だけでなく I felt sure としたいです。

■彼女が答えた。

「あたし、結婚の申し込みというのはもっとロマンチックなものだと思っていたのよ」  
(8002)

★「彼女は答えた」は She answered[replied], "…."でいいのですが、この文が先に書かれているということは、彼女がどう答えたんだろうと作者は読者に期待させていると感じられます。しかし、英語ではその感じが出せないで、次の彼女のセリフを切って"…," she replied, "…."と挟んでみました。

★「結婚の申し込み」は a marriage proposal でも a proposal of marriage でもかまいません。

★「もっとロマンチックなもの」は would be (much) more romantic です。

★「・・・と思っていたのよ」は I had an idea that…でもいいのですが、「何となく・・・という風に考えていた」という感じで、ここではちょっと弱いように思われます。「がっかりした」という感じを込めて I always thought…としましょう。

■ぼくは何かほっとしながらしかし驚愕して荒々しく叫んだ。(8002)

★「何かほっとした」は I was[felt] somehow relieved です。

★「驚愕する」は I was appalled です。「何か」は somehow のほかに、half I was[felt] relieved and half appalled で表すことができます。

★「荒々しく叫んだ」は shouted in a rough voice の他に shouted roughly も可能ですが、動詞に bawl とか bellow を使うと roughly がとれます。

●「・・・して・・・した」

ここは「・・・して・・・した」ですから、「主動詞（叫んだ）＋句（・・・して）」の形で I bellowed, half relived and half appalled と訳すと自然な英語になります。

■「おい、サユリ！」(8002)

★「おい」は、ここでは、自分にとってまずい方向に進もうとしているので、それをストップさせたいという気持ちが含まれているようです。したがって、listen!ではなく Hey!にします。

■「そうなのよ。本当にそう思っていた」(8002)

★Yes, I really thought so.でもいいのですが、Yes, I did—I really thought so.の方が日本語のニュアンスに近いと思います。

■とここまでは抒情的な口調でつぶやいて、あとは急に調子が変わり、嬉しそうにはしゃいで、「現実ってこういうものなのね」(8002)

★「ここまでは抒情的な口調でつぶやく」は she murmured in a lyrical tone あるいは This was in a kind of lyrical murmur です。

★「あとは」→「それから」として then を使います。

★「急に調子が変わり」は with a sudden change of voice ですが、「嬉しそうにはしゃいで」まで加えて suddenly switching to gaily とすることもできます。

★「現実ってこういうものなのね」は "realities of life are always like that, aren't they?"とか "Reality's like that, isn't it?"などです。